

令和２年度碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会 会議録

1 日時

令和２年７月３１日（金）午前１０時３０分から午前１１時３７分まで

2 場所

碧南市役所２階 談話室２・３

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員

碧南市副市長 金沢 宏治（委員長）

東海税理士会刈谷支部副支部長 伴野 義雄

日本福祉大学教授 青木 聖久

民生委員児童委員協議会代表 鳥居 隆幸

NPO法人ゆるりん理事長 磯貝 厚子

市民代表（一般公募） 坂部 泰

碧南市総務部経営企画課長 生田 和重

(2) 欠席委員

なし

(3) 事務局職員

福祉こども部長 杉浦 秀司

福祉課長 杉浦 浩二

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 澤田 直也

(4) 指定管理者

碧南ふれあい作業所所長 竹内 涼

社会福祉法人ダブルエッチジェー 本部事務長 熊本 直孝

4 傍聴者

０名

5 議題

(1) 令和元年度事業報告及び収支決算について

(2) 令和２年度事業計画及び収支予算について

(3) その他

## 6 議事の要旨

(1) あいさつ（金沢委員長）

(2) 議題

（１）令和元年度事業報告及び収支決算について

指定管理者が会議資料に基づき、議題（１）を説明した。その後、審議した結果、承認された。

＜主な意見・質疑＞

### 【委員】

高齢者プログラムの対象者はどのような人としているか。また身体機能を数値化しているとのことだが、数値化の方法とその後の運用方針などはどのようにしているか。

### 【指定管理者】

50歳以上の利用者の中から、職員間での検討の上、対象者を選定している。身体機能の数値化は、タオル絞りやシャボン玉づくりなどを通して体力等の測定を行うことを検討している。これにより、職員間の感覚的な把握状況に基づき身体機能の支援をするのではなく、よりの確な支援を提供するとともに、介護保険事業所等との連携を図る際の重要な情報になると考えている。

### 【委員】

施設の老朽化に伴い、修繕が必要となる案件がいくつか発生しているとのこと、50万円以下の案件であれば自主的に行うことができるが、これを超過すると市での対応となるとのことだが、決算書を見るに収入のうち指定管理委託料の占める割合は極一部であり、大部分は法人等からの拠出となっているなかで、施設の維持管理に関することが協議しないといけないという状況は困難が生じ得るかとは思いますが、指定管理者と市とは、十分な連携が取れているか。

### 【指定管理者】

法人が自主的に修繕を行う場合と比較すると、財源確保等着手までに時間がかかり修繕完了までのスピード感に欠けるところはあると感じているが、管理者の感覚としては、市担当との連携は十分に取れており、可能な限り速やかに対応していると感じている。

**【委員】**

車両の保有状況はどのようになっているか。資料では財産の保有状況が分からないため、車両の修繕等の維持にかかる経費の費用負担の状況が適切なのか不明瞭となっていると思われるが。

**【指定管理者】**

車両は7台保有しており、そのうち5台は市からの貸与となっております。  
今後は資料として貸借対照表を提示するなど対応いたします。

**【委員】**

利用者の家族との交流や家族支援の状況は

**【指定管理者】**

令和元年度までにおいては隔月で家族向けのグループガイダンスを開催し、相談対応や施設内の様子の報告を行っていた。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染対策のため開催を見合わせているため、代わりとしてふれあい作業所でインスタグラムを開設し、外部からでも様子がうかがえるようにするとともに、家族向けにインスタグラムの使い方のお知らせ文書を配布するなどしている。

**【委員】**

利用者の個別支援計画の作成運用等の方針として心がけていることは。

**【指定管理者】**

職員間においては、個別支援計画に記載の個人ごとの目標を念頭において支援にあたることを共有している。また、個別支援計画の作成に当たり相談支援専門員との連携を十分に図ることで、各職員において支援方針の検討や緊急時の対応に当たり相談支援専門員との連携を図る意識が向上してきたと感じている。

**【委員】**

決算書において、福利厚生費が事務費支出として計上してあるが、人件費支出の項目ではないのか。また業務委託費も事務費支出として計上してあり、内容としては、ふれあい工房アルゴに対する厨房調理の委託とのことだが、これは事業費支出の項目ではないのか。

**【指定管理者】**

ご意見のとおりのお考えもできると思うが、社会福祉法人の財務諸表の作成基準としては資料のとおりとなるため、このように計上させてもらいたい。

【委員】

高齢者プログラムにおいて身体機能の測定を年1回ごとを予定しているとのことであったが、半年に1回程度でも良いと思うがいかがか。

【指定管理者】

現在検討中であるが、測定を行う対象者を考慮すると、測定を行うためにまず測定項目の測定方法を本人に理解してもらうこと、精神的な上下があるため正確な身体機能の測定を行うために複数回測定を行いその平均値をもって判断していく必要があると考えているため、実質的には年に1回程度の測定しかできないのではないかと考えている。いろんな方の意見を聞きつつ検討していきたい。

(2) 令和2年度事業計画及び収支予算について

指定管理者が会議資料に基づき、議題(2)を説明した。その後、審議した結果、承認された。

<主な意見・質疑>

【委員】

指定管理料が令和2年度から増額となっている理由は。

【事務局】

令和2年度から指定管理者へ貸与している公用車両の任意保険料について、運行責任のある指定管理者での費用負担することとなったため、対象経費分を増額とした。増額分は概算であるため、年度終了時点で残額を返還命令する予定である。

(3) その他

議題、連絡事項等なし。

7 まとめ（日本福祉大学教授 青木 聖久）

本日の報告や説明を聞いたなかで、高齢者プログラムや、利用者本人の主体性を引き出すような取り組みなどかなり創意と工夫がなされており、非常に良いと感じた。

その中で、更なる取り組みとして検討していただきたいこととして、まず一つはミッションの可視化を検討していただきたい。

運営の理念として「共にいきる 共につくる」を目標と掲げていると思うが、これを

実現するための目標や取組の方針などを可視化して共有していけると良いと思う。例えば個別の狭い範囲の目標としては、個別支援計画の達成割合であったり、次の段階の集団活動としては、創意工夫をもったプログラムや保護者支援に関すること、そして広い範囲としては、中学生ボランティアの受け入れなど社会貢献事業の取組状況や地域企業との連携など、となっていると思うので、このような課題や方針の流れや成り立ちを可視化できると、ふれあい作業所の意義が市民からでも分かってもらいやすくなると思う。

もう一つは、数量的な実績だけでなく、具体的な支援の質が見えるような報告もあると良いと思う。個別支援計画を見直すことで職員の意識の改善があったという事であれば、それはどのような意識となったのか、であるとか、プログラムやレクリエーションを通して利用者の方がどのように感じているのか、といった、職員や利用者にとって良い施設となっているということが伝わる工夫があると、地域の住民の方など、障害分野に関連が薄い方にとっても、他人事ではなく自分事として捉えやすくなると思われる。こういったことを通して、障害があっても楽しく生活することもできる、ということを社会へ発信していけると良いと考えます。